

## 「アレオパゴスの説教」

2016年07月20日

使徒言行録 17章 22節～29節。パウロは、アレオパゴスの真ん中に立って言った。「アテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあつい方であることを、わたしは認めます。道を歩きながら、あなたがたが拝むいろいろなものを見てみると、『知られざる神に』と刻まれている祭壇さえ見つけたからです。それで、あなたがたが知らずに拝んでいるもの、それをわたしはお知らせしましょう。世界とその中の万物とを造られた神が、その方です。この神は天地の主ですから、手で造った神殿などにはお住みになりません。また、何か足りないことでもあるかのように、人の手によって仕えてもらう必要もありません。すべての人に命と息と、その他すべてのものを与えてくださるのは、この神だからです。神は、一人の人からすべての民族を造り出して、地上の至るところに住ませ、季節を決め、彼らの居住地の境界をお決めになりました。これは、人に神を求めさせるためであり、また、彼らが探し求めさえすれば、神を見いだすことができるようにということなのです。実際、神はわたしたち一人一人から遠く離れてはおられません。皆さんのうちのある詩人たちも、／『我らは神の中に生き、動き、存在する』／『我らもその子孫である』と、／言っているとおりです。わたしたちは神の子孫なのですから、神である方を、人間の技や考えで造った金、銀、石などの像と同じものと考えてはなりません。

パウロはアテネの哲学者たちに求められ、アレオパゴスの真ん中に立って「アテネの皆さん」と呼びかけ、説教を始めた。あなた方が信仰の篤い方であることを、私は認める。道を歩いていると、あなた方が拝む色々なものを見たが、「知られざる神に」と刻まれた祭壇さえ見つけたからである。その知らずに拝んでいるものをお知らせしましょう。彼らは、漏れた神があってはいけないと「知られざる神」の祭壇も築いたのであろうか。パウロは当初、偶像に憤慨したのであるが、説教の初めに、その偶像を手掛かりに、アテネの人々は信仰深いと褒め上げている。パウロは、あなた方が知らずに拝んでいる神こそが世界とその中の万物を造られた真の神であると続けている。彼らの身近にある一つの偶像から、哲学者たちの関心を引くように、巧みな導入をしている。

この神が天地の主であるから、手で造った神殿にはお住みにならない、また、不足でもあるかのように、人の手で仕えてもらう必要もない。神が人に命と息を、その他全てのものを与えてくださった。一人の人から全ての民族を造り出し、地上の至るところに住ませ、季節を決め、彼らの居住地の境界を定められた。これは、人に神を求めさせるためであり、探し求めさえすれば、神を見出すことができる。神は遠く離れてはおられない。あなた方ギリシアの詩人も、「我らは神の中に生き、動き、存在する／我らもその子孫である」と言っている通りである。私たちは神の子孫であるから、神を人間の技や考えで造った金、銀、石など像と同じものと考えてはならない、と続けた。

パウロは徹底して偶像を否定し、人に命を与え、世界を支配される全能の神を語り、ユダヤ的の神観を語っている。ただ、人や自然から探し求めれば、神を見出すことができるということは、主イエスの十字架と復活に神を見るパウロの信仰とは違っている。

「パウロに学ぶ トルコ・ギリシアの旅」に行った時、アレオパゴスの丘に立った。目の前のアクロポリスの丘に神々の像を並べた壮大なパルテノン神殿がある。ここで、神殿を誇るギリシア人に対し、偶像否定の説教をしたパウロの迫りに圧倒された。